

The 39th

Passenger Cars & Motorcycles

TOKYO MOTOR SHOW 2005



News

vol.

13

平成17年11月1日

第39回東京モーターショー2005

Passenger Cars & Motorcycles
乗用車・二輪車

"Driving Tomorrow!" from Tokyo みんながココロに描いてる、くるまのすべてに新提案。

事故大幅減めざす先進安全車ASV-3



先端テクノロジーが山と並ぶ今回の東京モーターショー。自動車メーカー各社、部品メーカー、政府出展などのブースで、先進安全車 (ASV) 関連の展示が注目を集めている。

ASVは91年、運輸省 (現・国土交通省) によって開始された先進安全車開発計画のこと。エレクトロニクス技術をはじめとする新技術によって自動車を高知能化し、安全性を格段に高めることを目的とするこのプランは、今日、第3期 (ASV-3) とよばれるフェーズに入っている。

これまでのASVは、単独車両の安全性確保、すなわち個々の車両に搭載されたデバイスを駆使して、自律的に事故を回避することを主眼としていた。赤外線カメラによる障害物への衝突防止支援、CCDカメラによる車線保持装置、ミリ波レーダーを使った前方車追従機能付きクルーズコントロールなど、現在市販車への搭載が進められている先進安全装備は、その成果の一部といえる。

2001年度に始まったASV-3計画では、車両単独での安全

確保だけでなく、他の車両と連携することで安全性を高めるという視点で技術開発が進められている。

複数のクルマの間で位置や速度などの情報を相互に教えあうことができるようになれば、見通しの悪い交差点での出会い頭事故など、現行のシステムでは回避が難しいケースにも対応できるようになるという。システムの性能をさらに高めるため、車車間通信、路車間通信を行うための無線通信技術など、さまざまな技術の検証が行われている。

開発計画の区切りである2005年度を前に、自動車メーカー各社はそれぞれ得意とする技術を盛り込んだASV-3モデルを発表。実証実験で大きな成果を上げた。国交省は2008年をメドに基礎技術を実用化し、交通死亡事故4割減を実現するという目標を掲げるなど、積極的に取り組んでいる。

ASV-3の技術展示は、安全技術の一大イノベーションを示している。コンセプトカーのような華やかさはないが、今モーターショーのなかでも屈指の注目ポイントと言えるだろう。

未来技術をシミュレーターで体感

「VDIM」をシミュレーター体感

トヨタ自動車 

トヨタはブース 2 階に 2 台の VDIM (アクティブステアリング統合制御) シミュレーターを設置。

VDIM は VSC の究極の進化形だ。TRC や ABS の機能と合わせて拡大し、限界領域に入ってからではなく、その前からアンダーステア、オーバーステアのどちらの場合にでも車両姿勢を安定させるシステム。レクサス GS430 に標準装備。この先進技術を来場者にシミュレーターで体感してもらおうというものだ。



トヨタの VDIM 体感シミュレーター

大型スクリーンに世界初の「ナイトビジョン」や「HiDS」

ホンダ 

ホンダはブース左側面にドライビングシミュレーターを設けるとともに、昇降スタンド上の女性解説者が縦長の大型スクリーンでレジェンド搭載技術をデモンストレーション。世界初の「歩行者検知機能付きインテリジェント・ナイトビジョンシステム」、走行車線を維持する「LKAS」、車速を制御して車間を保つ「IHCC」を合わせた「HiDS」(Honda インテリジェント・ドライバーサポート・システム)などを説明している。



ホンダ・ブースのドライビングシミュレーター

「高度運転支援技術」を披露

マツダ 

マツダは予防安全から衝突予知の幅広い段階での安全性を提供する「高度運転支援技術」の開発と実用化を表明。急カーブなどで不安定になる車両姿勢を自動的に立て直す「インテグレートド ビークル ダイナミック コントロール」や、新型 MPV に初めて採用した「アダプティブフロントライティングシステム」、「車車間通信による出会い頭衝突防止」技術を提示。「Mazda MX-Crossport」に IT 技術によるドライビングサポート機能を具備。ステージ奥のビデオコーナーでフロント上部に後方車両の画像を映し出す技術などを紹介している。

「セーフティ・シールド」を映像紹介

日産自動車 

日産はブース奥右側で「セーフティ・シールド」(クルマが人を守るという考え方)に基づく各種の安全技術を映像紹介。「アクティブ AFS」「レーン・デパーチャー・プリベンション (LDP)」「コンパティビリティ対応ゾーンボディ」などを誇示している。

また、ITS を活用し、神奈川県で交通事故低減や渋滞緩和を目的とした「SKY PROJECT」への取り組みを示した。

「車両周辺監視システム」を提示

三菱自動車 

三菱自動車はワールドプレミアの「MITSUBISHI Concept-X」に近未来の予防安全技術を投入。10個の近接障害物センサーで車両周辺にいる走行者や障害物を検出する「車両周辺監視システム」、車線から外れそうなときに未然に EPS (電動パワーステアリング) を制御する「レーン・キープ・アシスト」、ミリ波レーダーで先行車との距離を検出し、適正な車間を保つ「アダプティブ・クルーズ・コントロール」を披露した。

「2輪・歩行者巻き込み警報」をシステム化

スズキ 

スズキは「IONIS」のカットモデルでのシミュレーションコーナーで、車両周辺のセンシング技術を見せてくれる。フロント、サイド両イメージセンサーやバックカメラを駆使。なかでも速度計の左下にオートバイや歩行者の絵を表示する 2 輪車巻き込み警報・歩行者検知装置などが見所だ。



「IONIS」のカットモデルでセンシング技術を見せるスズキ

知能技術コンセプト「IVX-II」を初公開

富士重工業 

スバルは前面衝突時にフロアトンネルにエンジンが後退して乗員のダメージを低減する、独自の「新環状力骨構造ボディ」がもともとからの自慢。

中央ステージでは次世代の知能自動車の技術コンセプト「IVX-II」を初公開。自動減速&自動進路修正や GPS による車庫入れ自動制御などの安全性能をアナウンス説明して来場者の耳目を集めていた。



「IVX-II」を初公開したスバル

TOPICS
トピックス

**「環境」、「安全」、「税金」など
自動車工業会の推進事業を紹介
JAMA インフォメーションブース**



自動車メーカー各社のクルマ作りの成果を、内外へ向けて大々的に情報発信する「東京モーターショー」。主催者としてこの企画・運営に当たっている日本自動車工業会は、その他にも自動車産業の振興や国内モータリゼーションの健全な発展をめざして様々な活動に取り組んでいる。最近の重要推進テーマは「環境」と「安全」、「福祉」。そして自動車ユーザーに過重な負担を強いている税金の軽減キャンペーンなどだ。

こうした自動車工業会の諸活動を、ショー会場内で紹介しているのが2階中央モールに設けられた「JAMAインフォメーション」。

ブースでは「地球温暖化防止への取り組み」、「自動車と税金」、「福祉車両」、「交通安全」の解説や「自動車盗難防止」キャンペーンポスターなどの推進事業を18枚のパネルを使って展示紹介、ブース前のテーブルでも会場のインフォメーションサービスと合わせ、同種の広報資料を並べて来場のモーターファンに理解と協力を呼びかけている。

またブースの中に4台のパソコンが置いてあり、自動車工業会ホームページの「安全運転講座」プログラムを打ち出して会場内で習得できるといった工夫もこらしている。

**東京モーターショーが10倍楽しめる
「自動車ガイドブック2005-2006年版」と
「東京モーターショーガイド2005」**



「自動車ガイドブック販売所」では、日本自動車工業会発行の「自動車ガイドブック2005-2006年版(第52巻)」を販売している。場所は会場の北1ゲート、北ホール南側、中央休憩ゾーン、やすらぎ・いこいのモール、サービス通路、2階中央モールの7カ所。

自動車ガイドブックはA4版、約500ページの国産車の年鑑で、東京モーターショーを訪れるモーターファンなら必携の一冊。オールカラーで、全国産車を完全収録している。

また今回は開催50周年を記念した「東京モーターショーの50年」と題する特集を組み、第1回から昨年の第38回ショーまでの秘蔵写真なども掲載して文献資料価値を高めている。

ショー会場のほか、全国書店やブックサービス(通信販売)などでも販売しており、価格は1,200円(消費税込み)。会場内でお買い求め頂いた方にはハンディバッグをプレゼントしている。

同販売所では日刊自動車新聞社発行のオフィシャルガイド「東京モーターショーガイド2005」(監修・日本自動車工業会)と「2006輸入車ガイドブック」も併せて販売しており、価格は「モーターショーガイド」が500円、「輸入車ガイド」が1,200円(ともに消費税込み)。

販売所では「この3冊があれば、東京モーターショーが10倍楽しめる」といっている。

**●新発売の缶コーヒー「アロマックス」の販促キャンペーンを展開
オフィシャル・ドリンク・スポンサー
ポッカのPRブース**

往年の名車がプリントされた期間限定のポッカコーヒー



「淹れたての香りのコーヒーはいかがですか」——中央モールの中ほどで可愛いブルーのエプロンと黒のコスチュームに身をつんだキャンペーンレディが「コーヒースタンド」のあるブースへ笑顔で誘ってくれる。

「オフィシャル・ドリンク・スポンサー」として今回の東京モーターショーから初出品したポッカ・コーポレーションのPRブースでは、9月20日に新発売したレギュラーコーヒーのような本格ブラック(無糖)の「アロマックスブラック」と本格的な香りとお旨のエスプレッソコーヒーの「アロマックスエスプレッソブレンド」の2種類の新製品についての販促キャンペーンを展開。新製品のホットコーヒーの試飲サービスや携帯電話を使ってその場で「オリジナルブルゾン」が当たる簡単なクイズなどを実施しており、ポッカのブースの前はいつも大勢の来場者で盛り上がっている。

また、ポッカでは、東京モーターショーの開催にあわせて「50周年記念ニューオリジナル往年の名車缶」(7種類)のポッカコーヒーを期間限定でコンビニやスーパー、自動販売機などで発売中。さらに、「アロマックスブラック」と「アロマックスエスプレッソブレンド」に貼られているシールから第39回東京モーターショー開催記念オリジナルRCカー(8車種)が総計2万台当たるキャンペーンを11月18日まで展開している。

“ブルゾン”の当たる確率は10人に1人とか…



試飲サービス中のポッカブース

**●事故・故障時に独自サービス
日本興亜損保**

石原軍団のイメージキャラクターで知られる日本興亜損害保険(2階中央モール)。パンクしても修理費や事故・故障のレッカー代も50kmまで無料など、独自サービス満載のリスク分散型自動車保険「クルマックス」をPR。ブースをのぞくとバンドエイドがもらえるよ。



石原軍団のCM映像も楽しめる

広がる福祉車両の可能性

■司会進行

小谷あゆみ氏 (キャスター/エッセイスト)

■ゲスト

二宮清純氏 (スポーツジャーナリスト)

ムッシュかまやつ氏 (ミュージシャン)

山本 明氏 (ライター)

石井重行氏 (株)オーエックスエンジニアリング代表取締役会長)

■主催: (社)日本自動車工業会



なく、一緒に家族のことを考えて欲しい」と体験に基づく考察を述べたことから、「福祉車両は、みんなが使える普通のクルマ」であり、高齢化時代に「社会参加の幅をどう広げていくか」という方向へと論点は向かった。

かまやつ氏が「福祉車両というネーミング自体が良くない」、山本氏は「福祉車両の年間販売4万台は全体の1%で、潜在需要から見て異常に少ない。ネーミングも合わせ

(福祉車両への) ネガティブイメージが壁になっているため、足腰の弱った人が普通のクルマとして使っていけるような啓発活動が必要だ」、さらに二宮氏が「福祉車両の性能を競うカーレースはどうか」などと白熱した議論が続き、介護車両の駐車場乗降時のスペース確保の提案や税制のあり方など環境改善対策にも言及された。

パネル終了後、聴講者から「車載補助装置に対する行政支援が各自治体でバラついていて、補助額も不足。これが満たされて初めて一般ユーザーの立場に並ぶことができる」との発言があったのが印象的だった。

福祉車両シンポジウムは二宮氏による基調講演と、同氏と司会の小谷氏も加わったパネルディスカッションの2部構成で行われた。

基調講演で、二宮氏はスポーツ評論家の立ち場から日・米野球のスタジアムでの車いす利用者対応の違いなどを引用し、「日本は福祉車両に関する制度は整備されているが、その運用が本末転倒しているから利用者環境が改善されない」と指摘。これを正すには「モノよりヒトの心のバリアフリーが必要」などと説いた。

次いでパネルディスカッションに移り、まず自身が自操式の福祉車両使用者である石井氏が「これからのクルマ作りは身障者だけで

特別企画 フェスティバルパーク(西休憩ゾーン)

ご当地チームも参加して大ヒートアップ!



いま全国各地で大流行の「よさこい踊り」が10月29、30日の両日に登場した。

名付けて「YOSAKOI 鳴子踊り」。地元開催の祭典「ちば YOSAKOI 2005」の参加8チームが駆け付け、思い思いの趣向を凝らした衣装や振り付けで、アレンジ音楽に乗って一糸乱れぬ見事なマス演舞を披露する。正調よさこい節あり、ポップなソーランミュージックあり、龍神太鼓ありの華やかなパフォーマンス。

今回ショーが初デビューというご当地「幕張 Heart's 演舞」のメンバーは「埋め立て地に新しい文化を作ります」と大ハリキリ。

「wamiles 踊り子隊 美翔女」チームリーダーの町田好弘氏は幕張の出身で、現在は北海道の化粧品販売会社の社長だが「文字通り、故郷に“錦”を飾ることができた」と喜んでた。

炎のジャグリングパフォーマンスに大歓声



10月31日、フェスティバルパークにて「芸人まことのジャグリングパフォーマンス」が行われた。最初は輪ゴム、たばこなどを使った手品で始まり、風船細工によるキャラクター作りなどを披露したのち、ファイヤーーツを使ったジャグリングパフォーマンスへ。次々に繰り出される高度なテクニクに、観客席は大いに沸いていた。

VIP来場

2005年10月31日(月)

ルーマニア大使館
ヴァレンチン ヴレベネル
主席参事官経済担当公使

公明党
石田 祝稔 環境部会長

今日のイベント (予定) 2005年11月1日 (火)

* シンポジウム

14:00~16:30 カロツツェリアの世界
(国際会議場 2階・国際会議室)

* クリーンエネルギー車同乗試乗会

10:30~16:30 特設専用コース
(幕張海浜公園内 メッセ周辺公道)

* bay fm生放送

13:30~14:00 フェスティバルパーク (西休憩ゾーン)

* ジャグリングパフォーマンス

12:45~13:15
14:45~15:15
16:00~16:30 フェスティバルパーク (西休憩ゾーン)

※天候等の都合により予定が変更になる場合があります。



The essentials of imaging

毎分51枚 高速・高画質フルカラー出力

必要な時に必要なだけ、さまざまなニーズに柔軟に対応。

このニュースは コニカミノルタ
ON DEMAND PUBLISHER
C-51Nで出力しています。

コニカミノルタ ビジネスソリューションズ株式会社
ODI事業部
TEL 03-5205-7820
Email odi-info@bj.konicaminolta.jp
URL http://www.ebook-print.com

TOKYO
MOTOR SHOW
2005

10月31日の入場者数 62,200人
入場者数累計 873,700人

東京モーターショーニュースVol.13 2005年11月1日発行
発行所 社団法人 日本自動車工業会 広報室
〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館
TEL.03-5405-6119 FAX.03-5405-6136
WEB SITE www.tokyo-motorshow.com

